

2022年9月8日

内閣総理大臣
岸田 文雄様
防衛大臣
浜田 靖一様

オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会
代表世話人 湯浅 一郎
横浜市中区松影町2-7-16 浅見ビル202室
フォーラム平和・人権・環境
共同代表 藤本 泰成
共同代表 勝島 一博
東京都千代田区神田駿河台3-2-11

要請書

オスプレイのクラッチ不具合・飛行停止に関するの申し入れ書

日々の業務に精励されていることに敬意を表します。また、オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会及びフォーラム平和・人権・環境の申し入れに対し、多忙な時間を割いて対応していただいていることにも感謝申し上げます。

さて、8月17日に、米軍のオンライン専門誌 **BREAKING DEFENSE** は、空軍特殊作戦コマンドがエンジンとプロペラローターをつなぐギアボックス内のクラッチの不具合による事故が多発していることから、**CV22** オスプレイの全機飛行停止を決定したとの情報を伝えました。これについては、我が国の新聞各紙でも取り上げています。

オスプレイについては、開発当初から事故が続き、構造的な問題が指摘されてきました。運用を始めた以降も、その傾向は続き、事故率も高い水準を維持したままです。

わたしたちは、2015年3月から、貴職はじめ外務省・国土交通省に、事故原因あるいは構造的な問題、飛行の根拠や方法など、様々な要請をし、質問を提出してきました。わたしたちの立場は、機体構造に不安のあるオスプレイは飛行すべきではないというものです。今回の米空軍の飛行停止措置は、わたしたちにとっては、主張の正当が裏付けられたことであり、当然のことと受け止めています。

また、米空軍の決定を受けて、貴職が陸上自衛隊のオスプレイについて飛行を見合わせると決めたことも、基地周辺住民、飛行ルート下の住民の安全を考えた妥当な措置として歓迎しています。しかし、一方で、米海兵隊は、クラッチの不具合は2010年から確認されており、パイロットへのトレーニングにより対処可能として、飛行を継続するとのことでした。これはわたしたちにとって理解のできないことです。

その後、空軍は9月2日に飛行停止解除の決定をしたとのことでした。

わたしたちは、これを機に、オスプレイの構造的な問題について改めて精査されることを期待します。根本的な解決が望めない場合は、配備の撤回も視野に、安全優先の決定をすることを求めます。

また、この問題について、いくつかの疑問点もあります。この疑問点は貴職も同様にお

持ちなのではないかと思えます。ことは、市民の安全に関わることです。米軍がこう言っているというだけで終わらせることなく、米空軍及び海兵隊、海軍にも問い合わせた上で、国民に理解可能な回答をお願いします。

1 要請事項

- ① クラッチの不具合について根本的な解決策が施されないうちは、全オスプレイを飛行停止するよう米軍に申し入れること。
- ② 陸自の V22 についても同様に飛行停止を継続すること。
- ③ 横田基地では米空軍の飛行停止決定が出た後にも訓練をしていたふしがあるが、それについて横田基地に問い合わせ、事実ならば政府として抗議すること。
- ④ 陸自木更津駐屯地に暫定配備する予定で海上輸送されていたオスプレイ 2 機の配備を中止すること。
- ⑤ SUBARU および日本飛行機で行っている定期機体整備については、クラッチ問題に根本的な解決策がない以上、整備を完了することはできないと思われるので、作業を中止するよう、米海兵隊に申し入れること。
- ⑥ 2022 年 3 月にノルウェイで起きた MV22 の墜落事故、同じく 6 月にカリフォルニアで起きた MV22 の墜落事故について、米海兵隊から事故の詳細、事故報告を求めること。
- ⑦ 2017 年 9 月にシリアで起きた MV22 の墜落事故について詳細が公表されていない。また、2018 会計年度に起きた 2 件の CV22 の事故も原因が曖昧である。さらに 2019 年、2020 年に起きた CV22 の事故も内容が不明である。事故の内容や原因が明らかにされない以上、オスプレイは安全だと言うことはできない。これらの事故について詳細な資料を米軍に求めること。
- ⑧ 米空軍は 2017 年以降の 4 件の事故は、クラス A 事故に分類しているが、これまで CV22 のクラス A 事故にはこれが含まれていない。このことについて米軍に説明を求めること。

2 質問事項

- ① 今回の決定について、防衛省は、空軍及び海兵隊それぞれから説明を受けているのか。受けているとすれば、いつこの部署からどのような内容を受けたのか。
- ② 防衛省としては、この問題についてどう対処しようと考えているのか。
- ③ 海兵隊は 2010 年からこの事故を把握していると言っているようだが、2012 年の MV22 普天間配備の際に、この件について海兵隊より日本側に説明があったのか。また、陸自の V22 予算化の際には、この問題を承知していたのか。
- ④ 陸上自衛隊は、オスプレイ配備前に米本国でトレーニングを受けているが、クラッチの不具合に関するトレーニングも受けていたのか。
- ⑤ CV22 飛行停止直後に、防衛省はその理由を「特殊作戦部隊としての特性から慎重を期したため」と説明していたが、今回根本的な解決が図られないまま飛行を再開したことについては、その特性が考慮されていないと思わざるを得ないが、防衛省はこのことについてどのように考えるのか。